



2月「Kleingarten」 アントニア・シュルト

1.庭仕事は好きですか？周りの人や近所の人を観察したら、ガーデニングはかなり人気があるようです。「趣味」

として人気があるかというのを確かめたくて、総務省の令和3年社会生活基本調査という最も新しいデータを見ました。その結果において、男女共に「CD・スマートフォンなどによる音楽鑑賞」が最も人気で、次いで「映画館以外での映画鑑賞」、「スマートフォン・家庭用ゲーム機などによるゲーム」、「マンガを読む」などがその順にありました。「園芸・庭いじり・ガーデニング」が7位にきて、男性より女性に人気があると分かりました。



2.ガーデニングがそこまで趣味として人気がないというのは少し予想外でした。考えてみれば、この調査が全国で行われたので、都会などに住むひとだと庭が小さいか、そもそもないか、というのもその結果に反映されているかもしれません。または、隣の庭いじりをやっている年配の人を考えると、「趣味」としてではなく、生活の一部としてやっているのではないかと。なので、「趣味」という枠に入ってこないかもしれません。

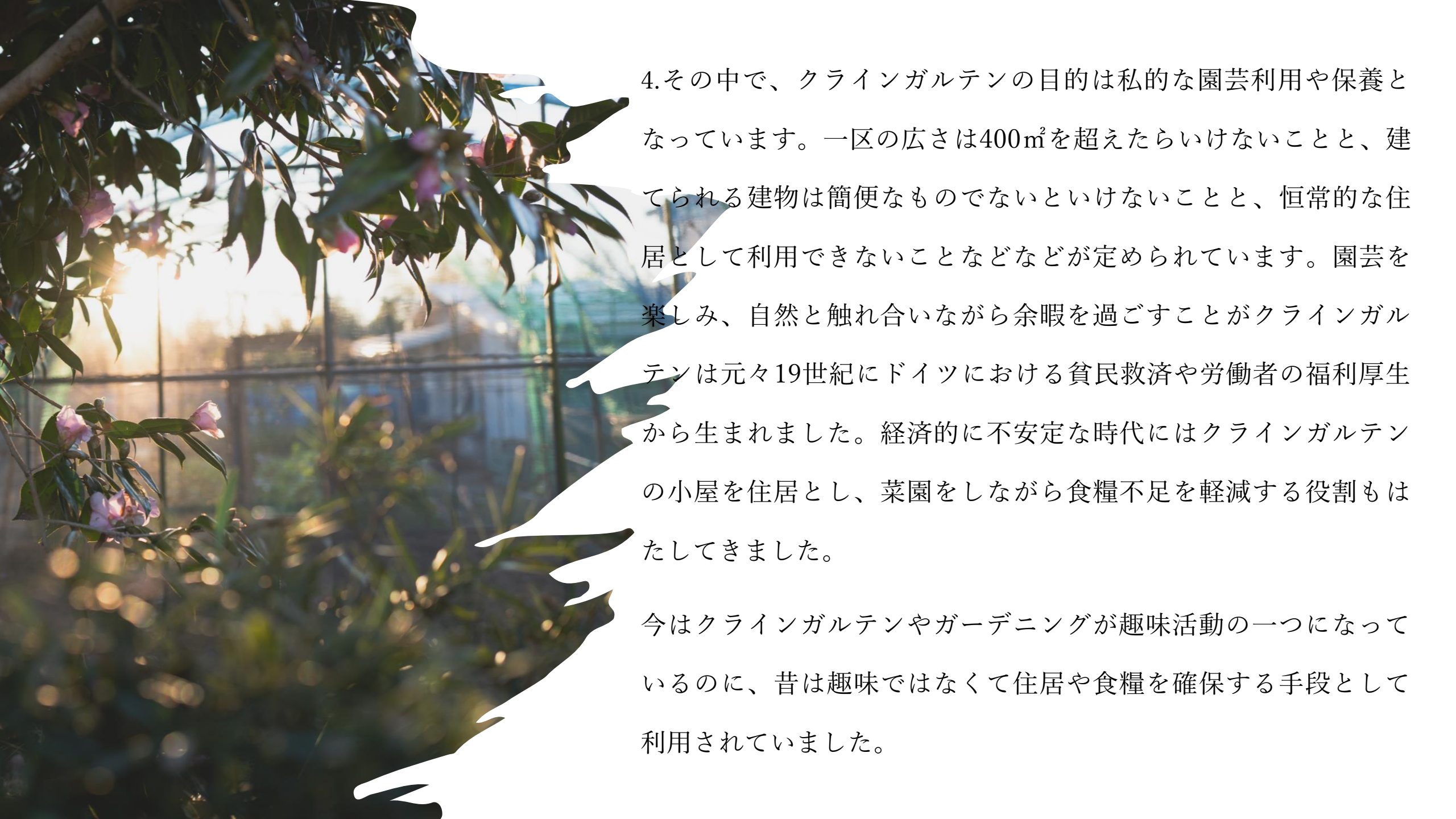
ドイツ人に人気な趣味を調べたら、1位から3位はこのような感じでした。1位が「ガーデニング」、2位「ショッピング・お買い物」、3位が「写真撮影」でした。意外と、ドイツがガーデニングの大国ですね。

ドイツで一軒家にはだいたい庭がついています。日本と比べて、比較的に広い庭が多いです。特に、子供がいる家庭だと、庭がないともの足りないと考えられています。親が草刈りをしたり、庭に設置した遊具、滑り台やブランコなどを子供が楽しんだり、愛犬のルーナが地面を掘って、スリッパを埋めたりするというのがドイツの庭のイメージです。



3. 「じゃ、ドイツ人はそんなにお庭が好きだったら、庭がない人はどうするの？」という質問が出て来るかと思います。実は、ドイツには19世紀にさかのぼる「クラインガルテン」(Kleingarten)の文化があります。ドイツの町の周縁部などにある四角く区切られた土地に一つずつコテージのような建物のある庭のことをドイツ語で「Kleingarten」(直訳：小さな庭)と言います。市民農園ということで、各地の非営利団体が一緒に管理して、会員に賃貸しています。現在、ドイツでの一番大きいクラインガルテン組織には全国で1万4千のクラインガルテン協会が所属して、約、90万区画の庭を管理し、その利用者は500万人です。ウィキペディアのクラインガルテンについての記事を見ると、ドイツの会員数がヨーロッパで最も高いと書かれています。

ドイツはガーデニングの大国だけでなく、法律の大国でもあります。色んな分野でルールを細かく規制するという傾向があるという意味です。このようにクラインガルテンに係る決まりは連邦クラインガルテン法に定められています。



4.その中で、クラインガルテンの目的は私的な園芸利用や保養となっています。一区の広さは400㎡を超えたりいけないことと、建てられる建物は簡便なものでないといけないことと、恒常的な住居として利用できないことなどが定められています。園芸を楽しむ、自然と触れ合いながら余暇を過ごすことがクラインガルテンは元々19世紀にドイツにおける貧民救済や労働者の福利厚生から生まれました。経済的に不安定な時代にはクラインガルテンの小屋を住居とし、菜園をしながら食糧不足を軽減する役割もはたしてきました。

今はクラインガルテンやガーデニングが趣味活動の一つになっているのに、昔は趣味ではなくて住居や食糧を確保する手段として利用されていました。